名瀬港長浜地区
旅客対応ターミナル整備事業

平成２０年　２月１２日

国土交通省九州地方整備局

目　次

１．　事業の概要　・・・・・・・・・港湾－４－１

（１）名瀬港の概要　・・・・・・・・・港湾－４－１

（２）事業の目的　・・・・・・・・・港湾－４－２

２．　事業の経緯　・・・・・・・・・港湾－４－３

（１）　事業の経緯　・・・・・・・・・港湾－４－３

（２）　事業の規模　・・・・・・・・・港湾－４－３

（３）　事業費　・・・・・・・・・港湾－４－３

３．　Ｂ／Ｃの算定基礎となった要因の変化　・・・・・・・・・港湾－４－４

４．　社会経済情勢等の変化　・・・・・・・・・港湾－４－５

５．　効果の発現状況　・・・・・・・・・港湾－４－６

（１）　事業の投資効果　・・・・・・・・・港湾－４－６

定量的な効果　・・・・・・・・・港湾－４－６

定性的な効果　・・・・・・・・・港湾－４－９

（２）　費用対効果の算定結果　・・・・・・・・・港湾－４－12

６．　対応方針（案）　・・・・・・・・・港湾－４－13

（１）　今後の事業評価の必要性　・・・・・・・・・港湾－４－13

（２）　改善措置の必要性　・・・・・・・・・港湾－４－13

（３）　事業評価手法の見直しの必要性　・・・・・・・・・港湾－４－13

参考資料　・・・・・・・・・港湾－４－14

１．事業の概要

（１）名瀬港の概要

名瀬港は、奄美大島の北西部に位置し、古くから本土をはじめ南方諸国との貿易港として、また海上交通の拠点として重要な役割を担っていました。昭和28年に本土国復帰とともに、翌29年に重要港湾に指定され、奄美諸島における流通の拠点港湾として整備が進められてきました。

名瀬港は、島民の安心で豊かな生活を支える生活密着型港湾としての機能を向上させるとともに、地域経済の発展の柱に位置づけられる観光産業は、旅客船バースの整備により、島内の観光産業の活性化に寄与しています。





（２）事業の目的

名瀬港は、毎年「飛鳥Ⅱ」等に代表される大型旅客船の寄港があります。しかし、大型旅客船が接岸可能な岸壁は、島内には名瀬港の新港地区のフェリー岸壁 2 バースのみであり、寄港時にはフェリーとのバース調整を図りながら、沖待ちにて入出港を行っていました。このため、バース使用が出来ない場合には大型旅客船の寄港機会の損失や、沖待ちするため歓迎セレモニーが行えない等、地域住民との交流機会が図られない状況でした。

本プロジェクトは、これらの問題点、また地元の強い要請に対処するため、長浜地区に背後の緑地と一体となった旅客対応ターミナル（以下、長浜地区旅客船バース）を整備したものです。

現在の長浜地区は、飛鳥Ⅱ等の大型旅客船が寄港し、歓迎セレモニーが行われる等、地域住民の交流機会の増加をはじめ、奄美大島の観光産業の発展に寄与しています。

長浜地区の利用状況



● **寄港時の賑わい風景**



● **歓迎セレモニー**

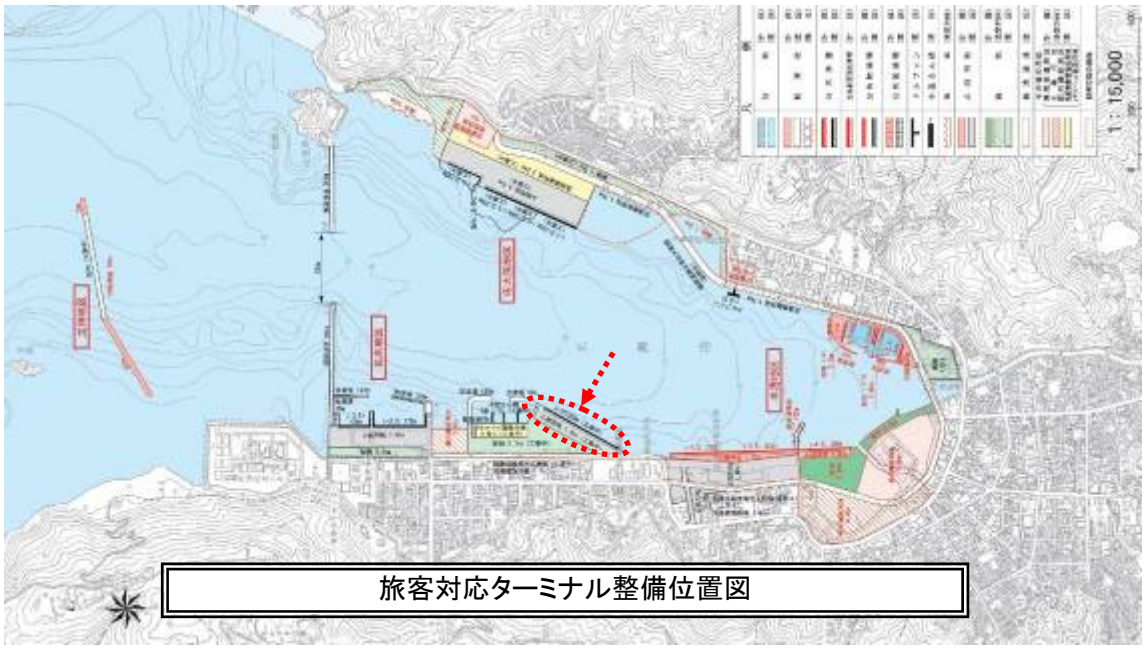
２．事業の経緯

（１）事業の経緯

平成　3 年 8 月	港湾計画改訂	
平成　3 年度	旅客対応ターミナル整備事業	事業着手
平成　5 年度	〃	現地着工
平成 15 年度	〃	完成
平成 16 年 4 月	旅客対応ターミナル	供用開始

（２）事業の規模

施設名	規　模	整備期間
岸壁(-10m)	280m	平成 3 年度～平成 15 年度
港湾施設用地	8,500m^2	平成 4 年度～平成 14 年度



旅客対応ターミナル整備位置図

（３）事業費

総事業費	59 億円
整備期間	平成 3 年度～平成 15 年度

３．Ｂ／Ｃの算定基礎となった要因の変化

本プロジェクトは、軟弱地盤や社会情勢に対応するため設計・施工上の課題に適切に対処し、安全で周辺環境に充分配慮された施工を行う必要があったため、工事期間の延伸と予想を超えた沈下量による基礎捨石投入量の増加、計測機器の設置分析等、事業費は 59 億円となりました。

■特異な自然条件による施工手法の変更

当地区は水深の起伏が激しく、急峻で、地盤挙動の推測が困難な南西諸島特有の「サンゴ礫混じり粘性土」が厚く複雑に堆積しており、置換改良時の土捨場の確保が困難であることを踏まえ、更なる調査及び検討を重ねたところ、地盤改良を行わない、計測管理に基づく緩速施工が採用されました。また、周辺施設や新規構造物への残留沈下等の影響も考慮され、載荷盛土による圧密沈下対策も実施されました。

■公共残土の有効利用

奄美大島内の他事業におけるトンネル掘削工事で発生した多量な掘削土の処分先としての要請と「再生資源の利用の促進に関する法律」の施行により、名瀬港において埋立材として有効利用されることで、工事期間の調整を図りました。

	計　　画	実　　績
事業着手	平成 3 年	平成 3 年
現地着工	平成 5 年	平成 5 年
完　　成	平成 9 年	平成 15 年
事 業 費	38.5 億円	59.0 億円
将来寄港数	8 隻※1	6 隻※2

※ 1：H16 港湾計画改訂時データ

※ 2：寄港実績は H16d は 8 隻，H17d～H19d は 6 隻

４．社会経済情勢等の変化

名瀬港は、国土交通省港湾局で取組まれている「みなと観光交流促進プロジェクト」の指定を平成17年度に受け、これを機に、国の支援のもと「名瀬港みなと観光交流促進協議会」が設立されています。

同協議会では、名瀬港における観光交流を促進するため、以下の基本方針を策定し、従来の観光パンフレット・ポスターの作成、主要ターミナルでの貼付、旅行代理店へのＰＲに加え、大型クルーズ船の誘致に特化したキャンペーン活動を展開しています。

名瀬港における観光交流を促進するための基本方針
- ○　観光船専用バースのＰＲ
- ○　港で奄美独自の文化に直接触れてもらう
- ○　港で地域の行事を行い、市民の関心を高める

■　名瀬港旅客船誘致活動の動向

①　「名瀬港観光船バースセールス協議会」(H17.6）の設立

- 目的：名瀬港への国内外のクルーズ船の寄港促進を図ると共に、奄美大島全体の観光及び地域経済の発展向上に寄与する
- 活動：クルーズ船寄港誘致促進及びその情報収集と調査研究並びに宣伝

②　「奄美群島の世界自然遺産登録推進協議会」(H19.1）の設立

- 構成：奄美群島選出県議，県，地元市町村，関係団体等
- 活動：関係機関が連携し、国立公園等の保護地域指定の推進や普及･啓発活動
- 経緯：「世界自然遺産候補地に関する検討会」(H15.5）環境省・林野庁

（奄美・琉球諸島が登録基準を満たす可能性が高い地域として「知床」、「小笠原諸島」と共に選定される。しかし、絶滅危惧種の生息地など、重要地域の一部は未だ十分に保護されていないことが指摘されているため、登録には今後新たな保護地域の指定など推薦の条件を整えることが必要とされている。）

③　「東アジア圏域におけるスポーツ合宿、クルーズ観光調査」（奄美市）の実施
2007年度　全国都市再生モデル調査（内閣官房都市再生本部）

(地域自ら考え行動する、自由な発想と創意工夫に基づく、先導的な活動が調査対象)

- 調査・活動内容：
  - ✓　海外からの受入体制整備のための課題検討委員会の設置
    （ホテルや観光業界、スポーツ団体等によるプロジェクトチーム）
  - ✓　合宿可能性調査
  - ✓　外航および大型クルーズ船誘致に関する調査
  - ✓　コミュニケーションシステムの調査
- 期待する効果：
  リピーターの開拓、奄美大島の知名度のアップ

５．効果の発現状況

事業の投資効果

（１）本事業整備により期待される効果

○ 定量的な効果

Ａ．地域住民による交流機会の増加

Ｂ．大型旅客船の沖待ち損失回避

Ｃ．旅客の待ち時間損失回避

○ 定性的な効果

Ｄ．大型旅客船への乗船（体験）機会の創出

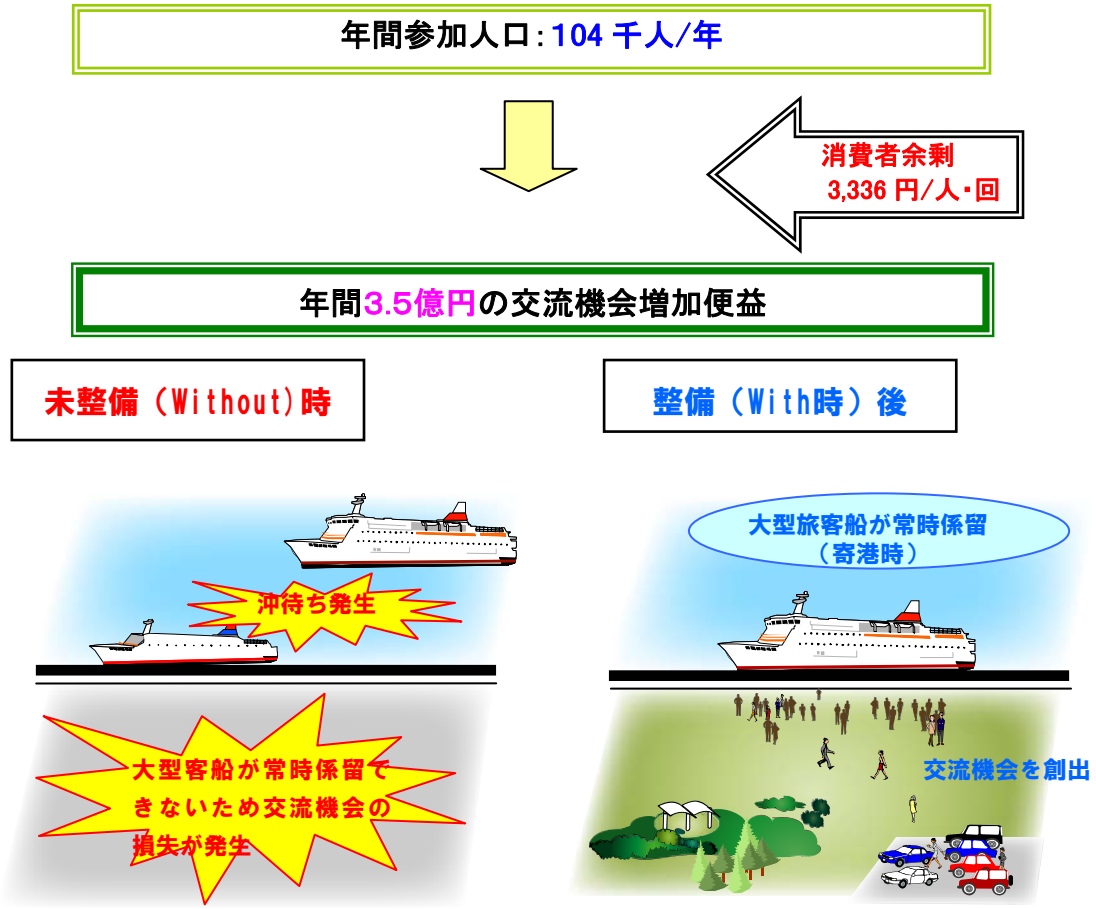
Ｅ．快適な環境空間の形成

Ｆ．観光収益の増

定量的な効果

Ａ．地域住民による交流機会の増加

長浜地区旅客客バースの整備により、大型旅客船の歓送迎イベントや休憩・散策が行われる等、地域住民の交流機会が増加しました。



B．大型旅客船の沖待ち損失回避

長浜地区観光船バースの整備により、フェリーとのバース調整が不要となり、大型旅客船の沖待ちの損失が回避されました。

年間入港隻数：6隻/年

沖待ち損失回避
896 千円/隻･回

年間 0.1億円の大型客船の沖待ち損失回避

未整備（Without）時



整備（With時）後



C．旅客の待ち時間損失回避

長浜地区観光船バースの整備により、フェリーとのバース調整が不要となり、大型旅客船の沖待ちの損失が回避されました。これに伴い、旅客の下船・乗船における待ち時間の損失が回避されました。

年間旅客数：2,254 人/年（6隻/年）

待ち時間損失回避
1,860 円/人

年間 0.1 億円の旅客の待ち時間損失回避

未整備（Without）時



整備（With時）後



定量的な効果

D．大型旅客船への乗船（体験）機会の創出

長浜地区旅客船バースの整備により、大型旅客船が奄美大島滞留中、常時、岸壁係留が可能となりました。

これにより、大型旅客船の寄港時、船社の協力により、奄美市民に体験乗船（船内見学：無料）が行われる等、大型旅客船への乗船機会が創出（1寄港当たり150名程度）されました。

なおアンケート調査によると、82%の奄美市民が大型旅客船への体験乗船を希望しています。







大型旅客船への乗船体験

E．快適な環境空間の形成

本プロジェクトは、直背後の港湾緑地との調和を図り、エプロン部にはインターロッキングによるデザインが施されています。

長浜地区観光船バースは、直背後の港湾緑地とあわせ、港湾就労者の就労環境や港湾旅客の利用環境の改善、また港湾周辺地域環境の改善に寄与しています。

●岸壁(-10m)背後の緑地







●岸壁(-10m)エプロンデザイン



Ｆ．観光収益の増加

長浜地区観光船バースの整備により、大型旅客船による奄美大島へのクルージングが可能となり、寄港機会も増加しています。これにより奄美大島の観光収益の増加（維持）が図られる等、地域経済の発展に大きく寄与しています。











（２）費用対効果の算定結果

①便益（B）

便益項目	総費用	基準年（H19）における現在価値
○交流機会の増加	171.4 億円	84.4 億円
○沖待ち損失回避	5.0 億円	2.1 億円
○残存価値	11.6 億円	1.9 億円
合計	188.0 億円	88.4 億円

②費用（C）

項　目	総費用	基準年（H19）における現在価値
○事業費	57.3 億円	85.3 億円
○維持管理費	5.1 億円	2.2 億円
合計	62.4 億円	87.5 億円

③評価指標の算定結果

費用便益比（CBR）	B／C＝	便益の現在価値（B） / 費用の現在価値（C）	＝	88.4 / 87.5	＝	**1.0**

	現時点での分析結果（事後評価）
費用便益比（ＣＢＲ）	1.0

６．対応方針（案）

（１）今後の事後評価の必要性について

寄港実績が計画を下回っているが、事業実施の効果が既に発現されているため今後の事後評価の必要はないと考えます。

（２）改善措置の必要性について

事業実施において一定の効果が得られているものの、寄港実績が計画を下回っている現状を踏まえ、更なる誘致活動を実施し、利用促進に努めていく必要があると考えます。

（3）同種業務の計画・調査のあり方の見直しや事業評価手法の見直しの必要性

本事業は、南西諸島特有の珊瑚礫混じり粘性土の地盤対策により事業着手から、完了までに長期間を要した事業であり、同種事業については今回の知見を踏まえ、社会情勢の変化を考慮した需要予測や計画的な事業実施が必要であると考えます。

参考資料

１．費用対効果分析の考え方

（１）費用対効果分析根拠

費用対効果分析は

・「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル」平成 16 年 6 月（国土交通省港湾局）

・「港湾投資の評価に関する解説書 2004」平成 16 年 10 月（(財)港湾空港高度化ｾﾝﾀｰ）

に従い、旅客対応ターミナルの整備に要する総費用とそれによってもたらされる総便益を比較する費用便益比分析、及び貨幣換算しない定量的効果あるいは定性的効果の分析により行う。

１）費用便益分析

①基本的な考え方

・費用便益比

$$費用便益比（ＣＢＲ）＝\sum_{t=1}^{T} Bt/(1+i)^t \Big/ \sum_{t=1}^{T} Ct/(1+i)^t$$

・現在価値

$$現在価値（ＮＰＶ）＝\sum_{t=1}^{T} \{Bt/(1+i)^t - Ct/(1+i)^t\}$$

・経済的内部収益比率

$$経済的内部収益比率（ＥＩＲＲ）とは\sum_{t=1}^{T} \{(Bt-Ct)/(1+i_0)^t\} ＝０を満たす i_0$$

ここで、Ｂｔ：ｔ年次における便益　Ｃｔ：ｔ年次における費用

Ｔ：計算期間　　ｉ：社会的割引利率　i_0：内部収益率

・費用及び効果の各項目は、社会的割引率 4.0%で現在価値化したものを総計する。

・　評価対象期間は原則として 50 年とする。

②総便益の内容

・　総便益

総便益（Ｂ）＝（地域住民による交流機会の増加＋沖待ち損失回避）便益＋残存価値

③総費用

・総費用

総費用（Ｃ）＝初期投資費用

・平成　3 年から平成 14 年までの事業費を計上する。

２）貨幣換算しない効果の分析

①大型旅客船への乗船（体験）機会の創出

②快適な環境空間の形成

③観光収益の増加

（２）総費用の算定

初期投資費用については、実績及び事業計画に基づいた年度別事業費を計上した。なお、事業全体の総費用は表－１である。

表－１　事業全体の総費用算定結果

項　目	費用対象施設	施工年度	費用	現在価値換算費用
岸壁(-10m)	280m	H3～H14	52.7億円	57.3億円
港湾施設用地	8,500m2	H4～H13	6.3億円	
合　　計			59.0億円	57.3億円

注：端数処理のため各値の計と合計値は一致しない。維持管理費を含まない

（３）総便益の算定

１）旅客対応ターミナルが整備されることによる、便益を項目別に整理した。なお、事業全体の総便益は表－２のとおりである。

表－２　事業全体の便益

	計測する便益	金額	現在価値換算便益
１	地域住民による交流機会の増加	3.5億円/年	84.4億円
２	沖待ち損失回避	0.1億円/年	2.1億円
合　　計		3.6億円/年	86.5億円

注：端数処理のため各値の計と合計値は一致しない

２）残存価値

旅客対応ターミナルの岸壁及び港湾施設用地は供用期間（50 年）の終了後も価値が存在することが見込まれるため、用地の価値を供用期間終了後に計上する。

表－３　残存価値

残存価値	金額	現在価値換算便益
事業全体	11.6億円	1.9億円

・対象面積：14,000 ㎡
・土地単価：83,200 円/㎡(鹿児島県奄美市長浜地区の 2007 年地価公示価格)
・残存価値：11.6 億円

（４）費用対効果分析の結果

１）事業全体の費用対効果分析の結果

旅客対応ターミナルの整備による事業全体の費用対効果分析結果は表－４のとおりである。

表－４　事業全体の費用対効果分析結果

対象施設	総便益（B）	総費用（C）	費　用便益比（B／C）	純現在価値（ＮＰＶ）	経済的内部収益率(EIRR)
旅客対応ターミナル	88.4億円	87.5億円	1.0	0.9億円	4.0%

注：上記の便益及び費用は社会的割引後の数値である。

２）貨幣に換算しない定量的効果及び定性的効果

① 定性的効果

表－５　定性的効果

効果の分類		効果項目	定性的効果
利用者	地域	大型旅客船の乗船（体験）機会の創出	大型旅客船の寄港時、船社の協力により、奄美市民に体験乗船（船内見学：無料）が行われる等、大型旅客船への乗船機会が創出。
	環境	快適な環境空間の形成	直背後の港湾緑地と相まって、港湾就労者の就労環境や港湾旅客の利用環境の改善、港湾周辺地域環境の改善に寄与。
	地域	観光収益の増加	奄美大島の観光収益の増加（維持）が図られる等、地域経済の発展に寄与

２．「地域住民による交流機会の増加」の便益について

長浜地区旅客船バースの整備に伴う来訪者の増加をアンケート調査により把握し、来訪者の交通手段別交通費と訪問回数の増分を基に、TCM（Travel Cost Method：旅行費用法）を用いて便益を算出しました。

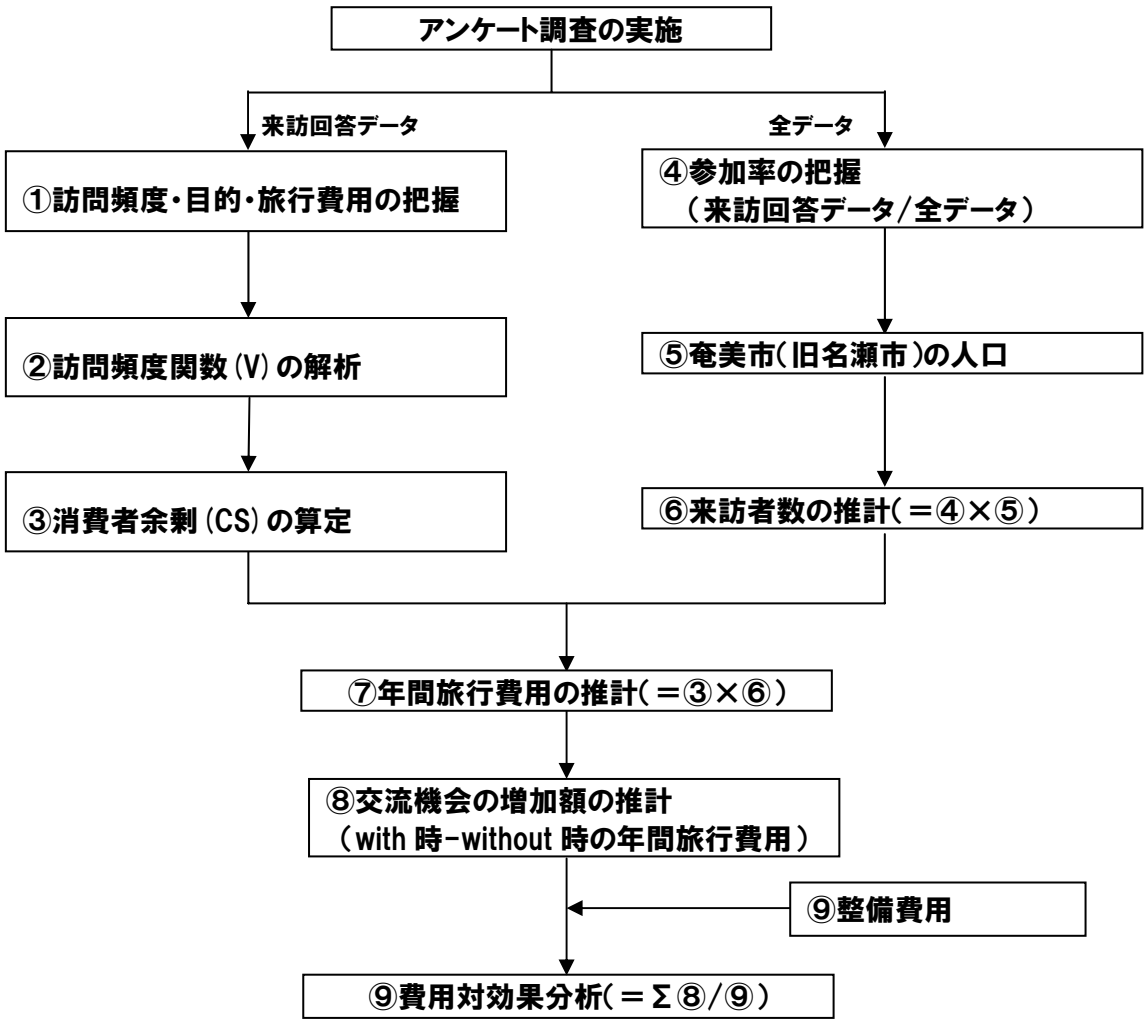
今回の TCM 調査は、奄美市民（旧名瀬市民）に対してアンケート調査を行い、長浜地区旅客船バースに対する来訪意思や来訪頻度、交通手段、居住地等の個人属性等を把握し、一般化費用（旅行費用＋時間費用）と訪問頻度から訪問頻度関数を算出して、消費者の満足度としています。

（１）ＴＣＭ調査の概要と検討フロー

交流機会の増加による便益は、「港湾投資の評価に関する解説書 2004」に示す「港湾緑地整備プロジェクト」に基づき、TCM（Travel Cost Method：旅行費用法）により算出する。

TCM には、ITCM(Individual Travel Cost Method：個人トラベルコスト法)と ZTCM（Zone Travel Cost Method：ゾーントラベルコスト法）があるが、それらどちらの手法を採用するかを判断する重要な要素は訪問頻度である。

本事業評価の対象である長浜地区観光船バースは、消費者個人（本事業評価では奄美市民）の訪問頻度が比較的高い施設（気軽に訪問することの出来る施設）であるため、個人のレクリエーション行動パターンに着目する非集計タイプの ITCM を採用する。



（２）アンケート調査の結果概要

１）アンケート調査

長浜地区観光船バースへの来訪状況や交流機会増加に係る便益計測に必要となる各データを収集する目的で、奄美市においてアンケート調査を実施した。

アンケートが有効であると認められる回答数（サンプル数）は、下記の標本数算出式（A）より求めた。

$$n = \frac{N}{\left\{(e / K\alpha)^2 \times (N-1) / \left[P \times (1-P)\right] + 1\right\}} \quad \cdots \quad (A)$$

n　：標本数
N　：母集団の大きさ（旧名瀬市人口）約 39,585 人（平成 19 年現在）
e　：信頼度の幅　5%（相対精度=e/P=0.01～0.1）
Kα：信頼度係数　1.96
P　：母比率（50%が最大）　50%

母集団を旧名瀬市人口 39,585 人とし、信頼度の幅（5%）を考慮すると、アンケートが有効となる回答数（サンプル数）は「約 270 通（信頼度 90%）～約 380 通（信頼度 95%）」となる。

アンケートの回収率を 15～20%と想定し、300～400 通程度の回答が見込めるよう、アンケート発送を「2,000 通」と設定した。

なお、アンケート調査期間において、有効回答数は「238 通」、信頼度は 88%に相当することから、アンケート調査は概ね有意義なものと考えられる。

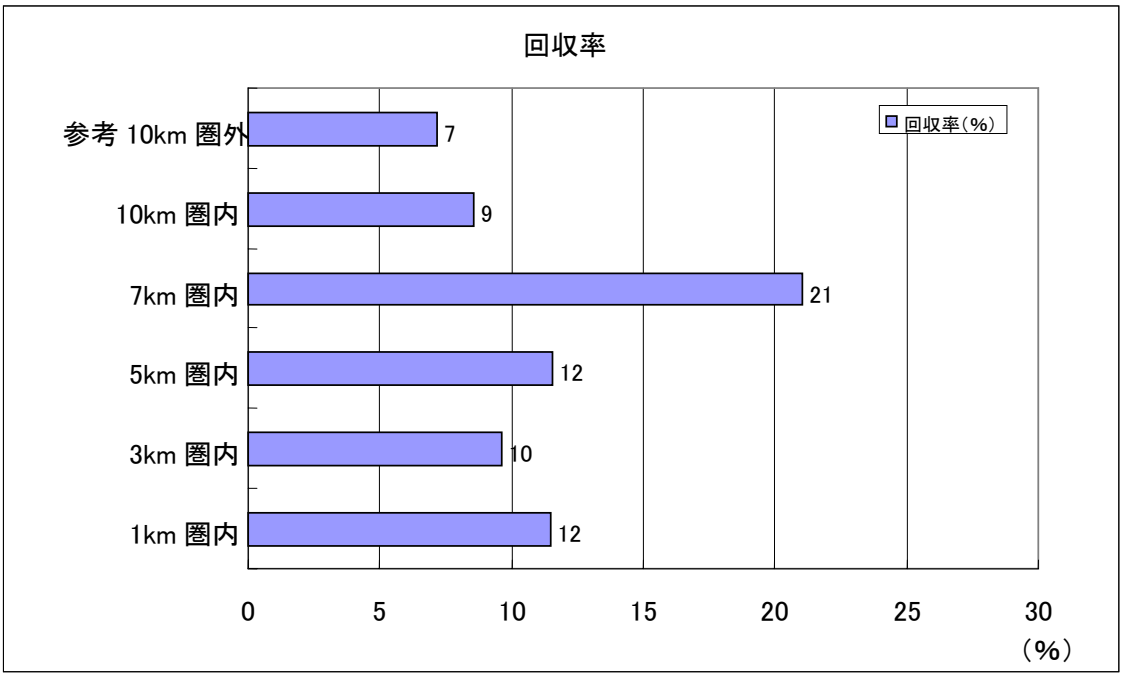
アンケートの調査概要と各ゾーンへの発送数は、次のとおりである。

表－6　アンケート調査の概要

調査期間	平成 19 年 10 月 16 日　～　10 月 31 日
調査対象	奄美市民（旧名瀬市民）
調査方法	無作為抽出・投函方式
調査内容	訪問経験および訪問意思・頻度、来訪手段及び目的、属性等

表－7　アンケート配布数・回収数

ゾーン	人口	アンケート配布数	回収数	回収率
1km 圏内	3,016	304	35	11.5%
3km 圏内	16,609	769	74	9.6%
5km 圏内	11,055	527	61	11.6%
7km 圏内	7,168	276	58	21.0%
10km 圏内	1,737	82	7	8.5%
参考 10km 圏外		42	3	7.1%
合計	39,585	2,000	238	11.9%



ゾーン別アンケート回収率

表－8　各ゾーンの区分

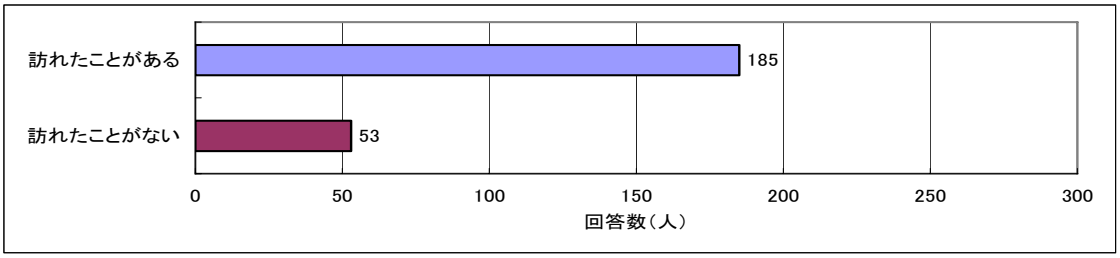
圏域	地区及び町字名
1km 圏内	長浜町、塩浜町
3km 圏内	矢之脇町、入舟町、金久町、柳町、幸町、井根町、末広町、永田町、港町、伊津部町、小浜町、佐大熊町、石橋町、安勝町、久里町、朝仁新町、朝仁町
5km 圏内	古田町、小俣町、春日町、真名津町、平田町、浜里町、平松町、小宿
7km 圏内	鳩浜町、朝日町、和光町、浦上町、有屋町、仲勝町、大熊
10km 圏内	芦花部、有良、根瀬部、知名瀬、名瀬崎原、小湊、名瀬勝、西仲勝、前勝、西田、朝戸、伊津部勝、名瀬里
参考 10km 圏外	住用村、笠利町、龍郷町

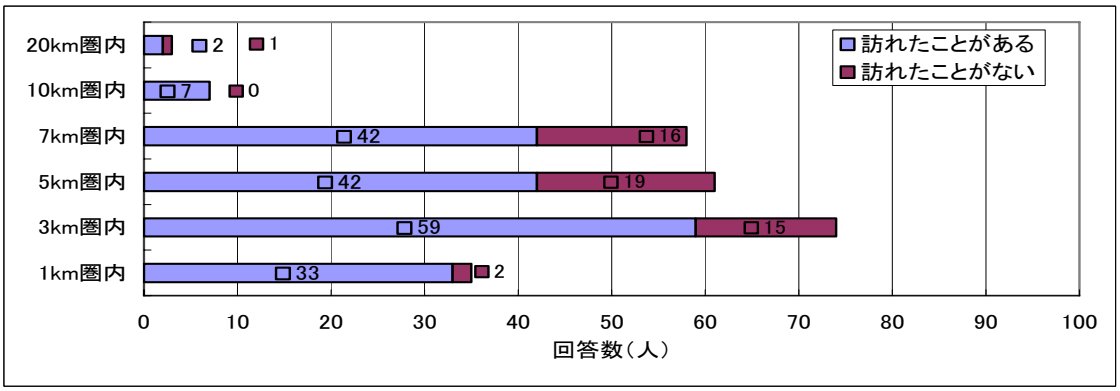
３．アンケート分析結果

（１）ゾーン別の来訪経験および来訪意思

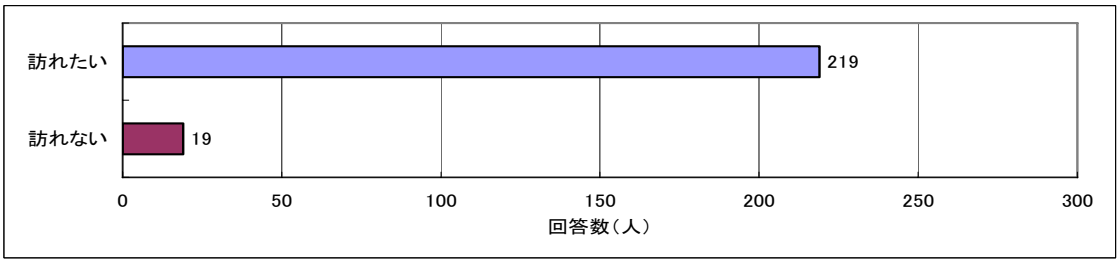
現在の長浜地区観光船バースへの来訪経験と将来の来訪意思について質問を行った。現在、観光船バースに「訪れたことがある」と回答した人が 185 人（78%）に対し、将来「訪れる」と回答した人は 219 人（92%）に増加している。

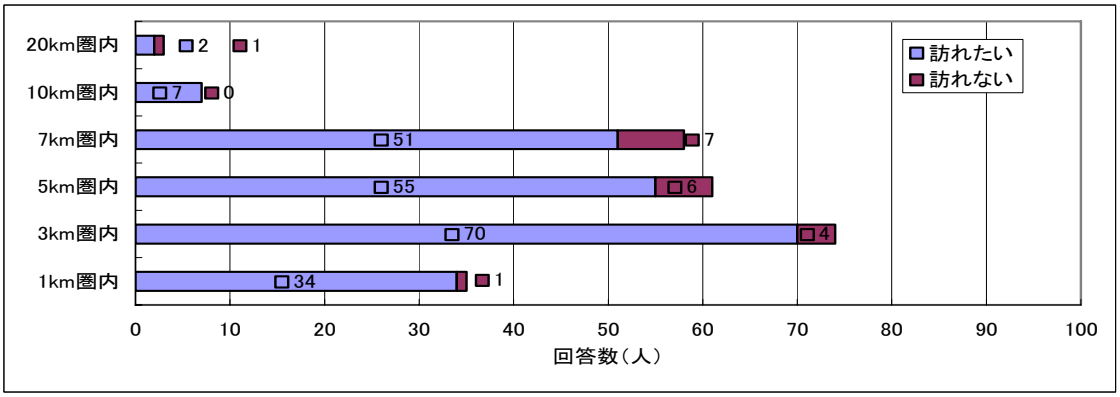
＜現在＞





＜将来見通し＞



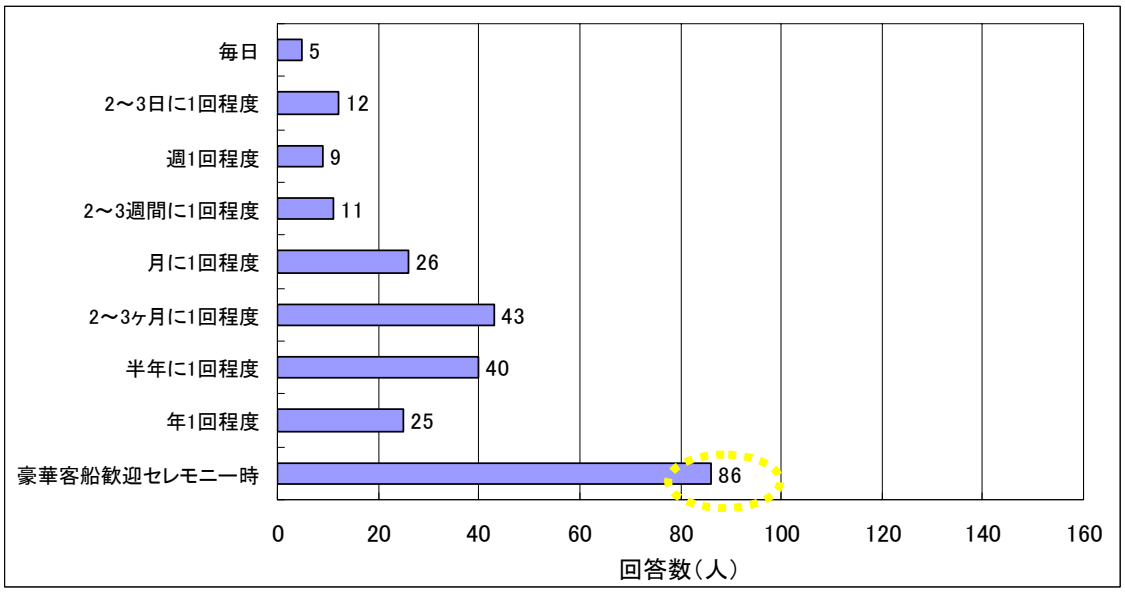


（２）来訪頻度

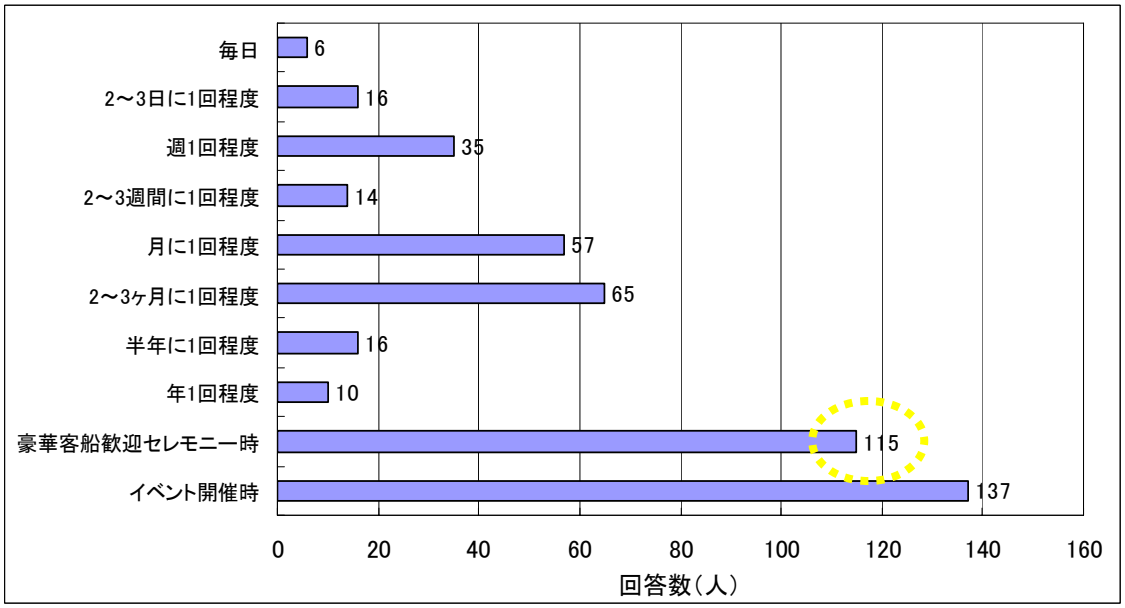
①の質問で「訪れたことがある」または「訪れる」と回答した人の来訪頻度は以下のとおりである。

現在は「半年に１回程度」、「2～3ヶ月に１度程度」が多いが、将来は「2～3ヶ月に１度程度」、将来は「2～3ヶ月に１度程度」、「月に１回程度」が多くなる等、来訪頻度は全体的に増加する。また、豪華客船歓迎セレモニー等への参加意思が強いことが分かる。

＜現在＞



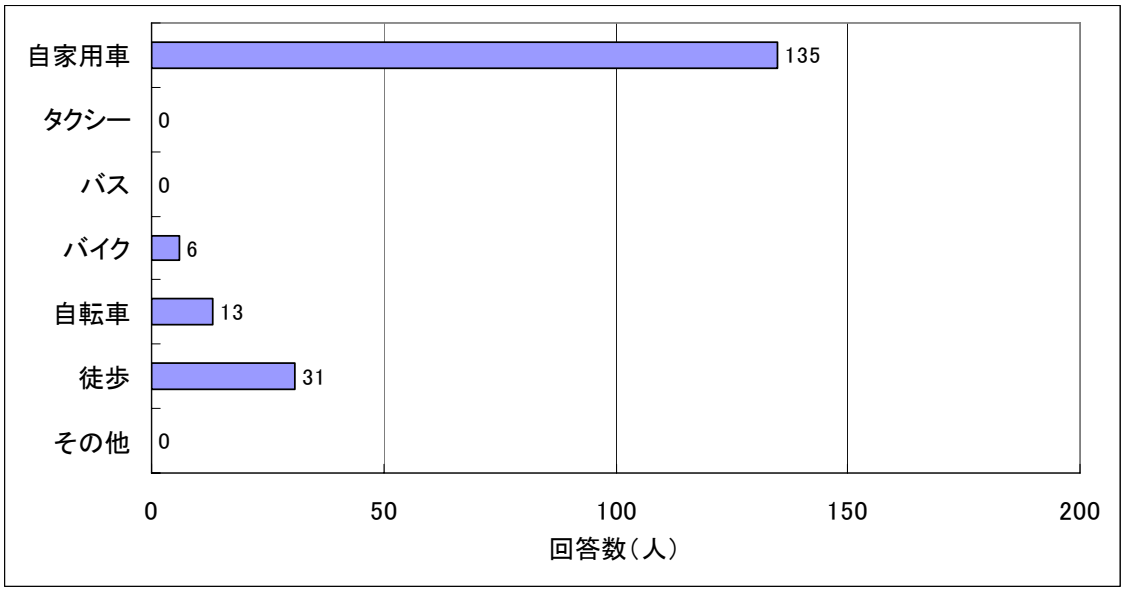
＜将来見通し＞



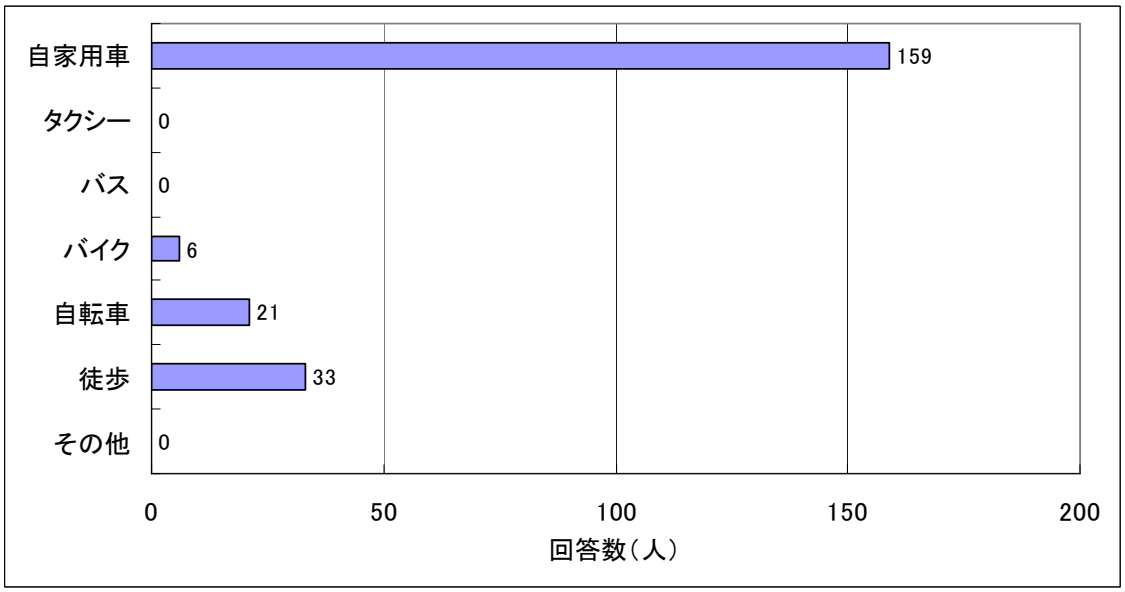
（３）来訪時の交通手段（複数回答有）

来訪時の交通手段については、「自家用車」が圧倒的に多く、来訪者の約 3/4 を占めている。現在および将来見通しについて交通手段に大きな差はみられない。

＜現在＞



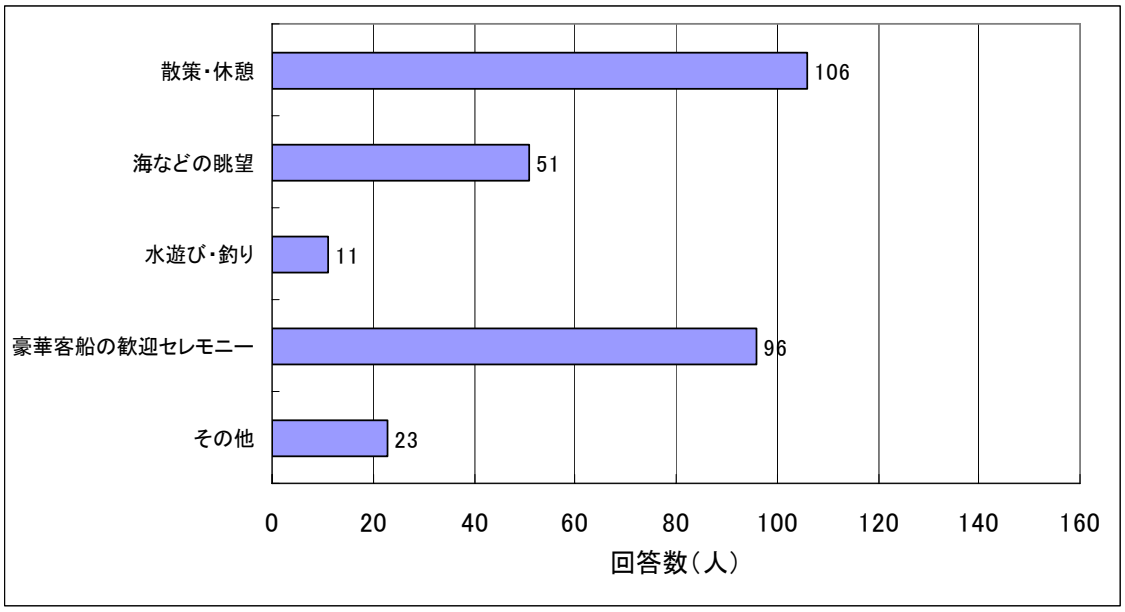
＜将来見通し＞



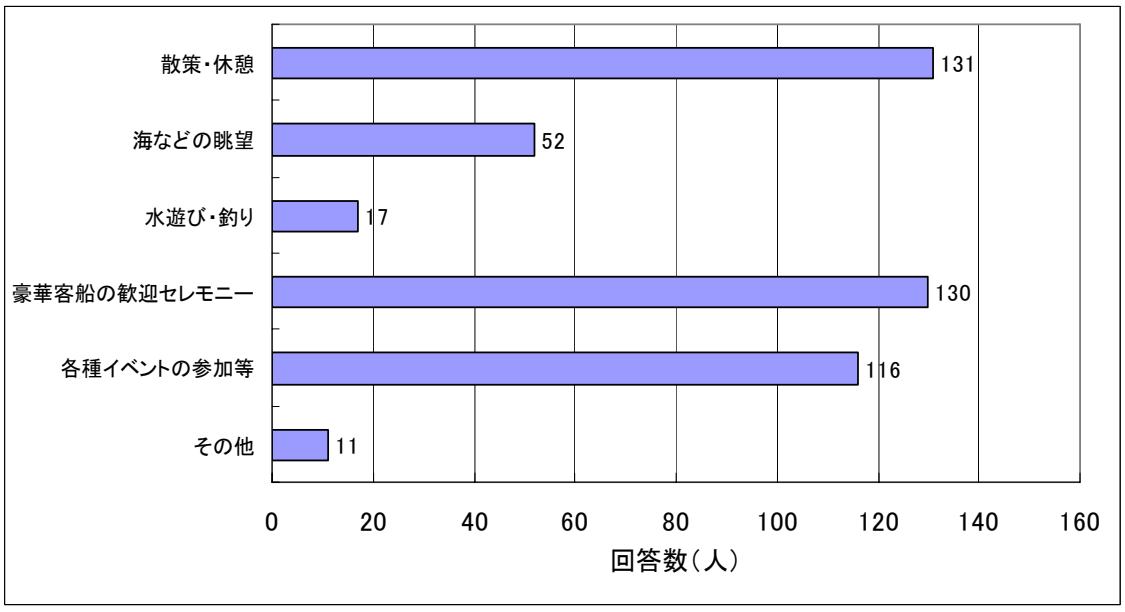
（４）来訪目的（複数回答有）

来訪目的については、現在、将来見通しとも、散策・休憩、豪華客船の歓迎セレモニーへの参加が多く来訪目的の一つとしている。それに次ぐ目的は、海などの眺望であり、また将来的に各種イベントの参加に期待していることが分かる。

＜現在＞



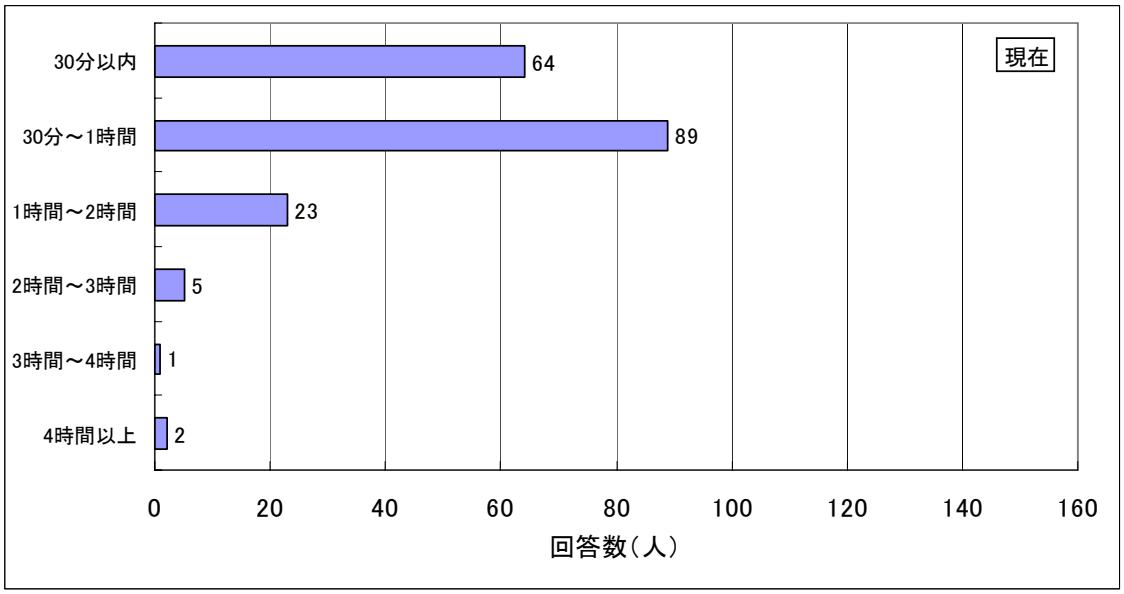
＜将来見通し＞



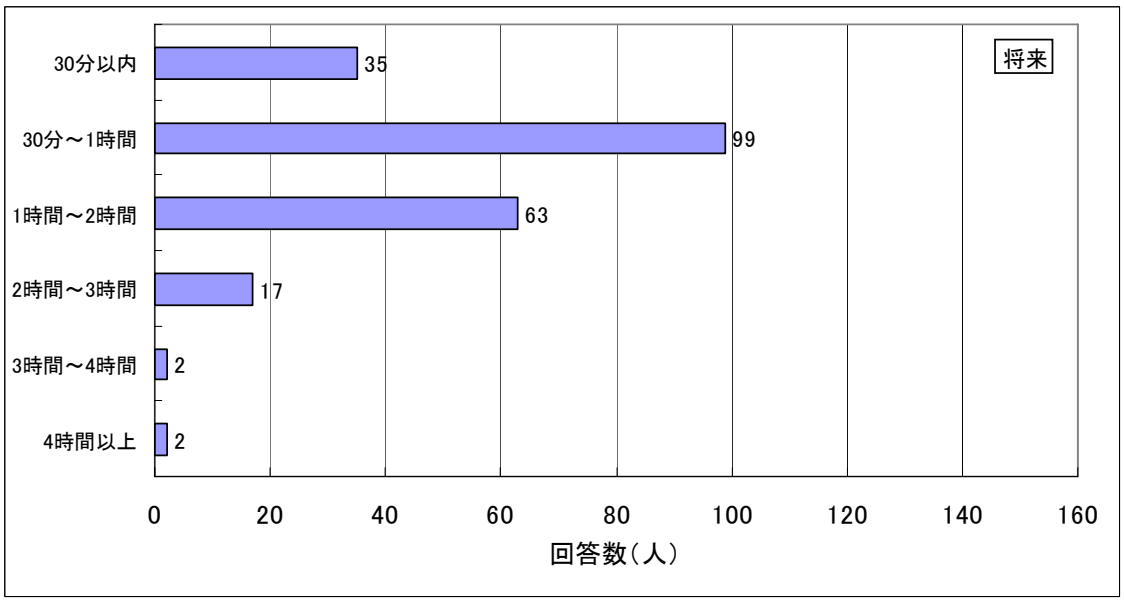
（５）滞在時間

観光船バースの現在の滞在時間は、30 分～1 時間が最も多く、次いで 30 分以内である。将来の滞在時間は 30 分～1 時間、次いで 1 時間～2 時間となり、滞在時間が長くなる傾向が見受けられる。

＜現在＞

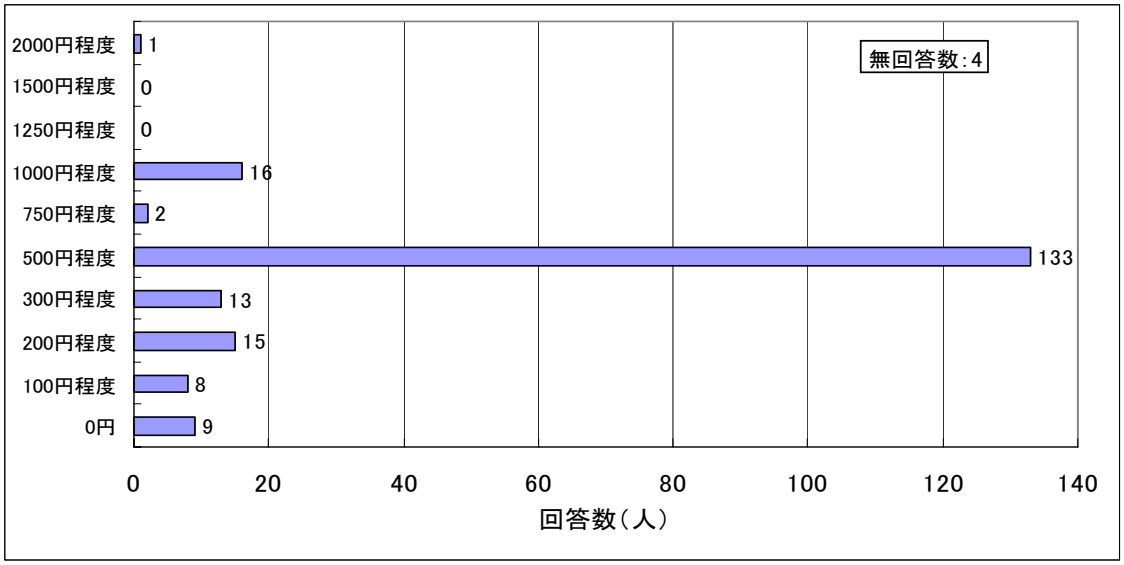


＜将来見通し＞



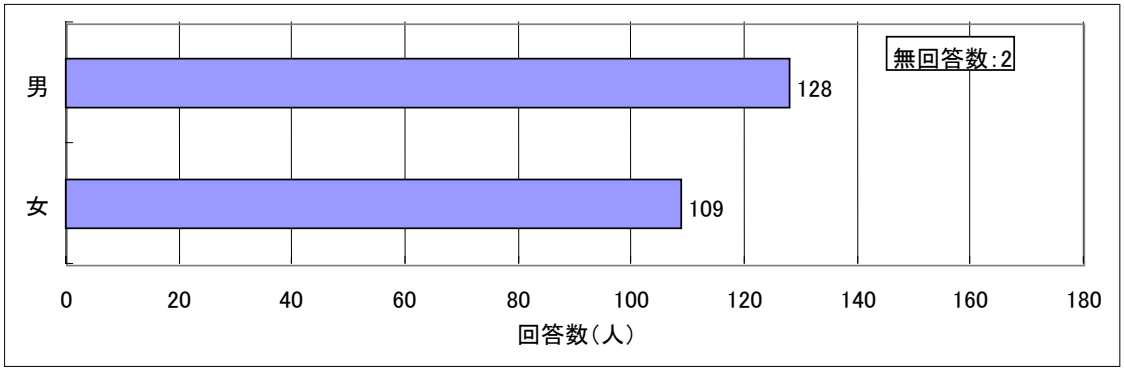
（６）大型客船への体験乗船

アンケート 238 票のうち 201 票が大型客船への体験乗船を希望している。
支払意志額は、無料とする意見が 9 票（4.5%）と少なく、500 円程度が最も多い。

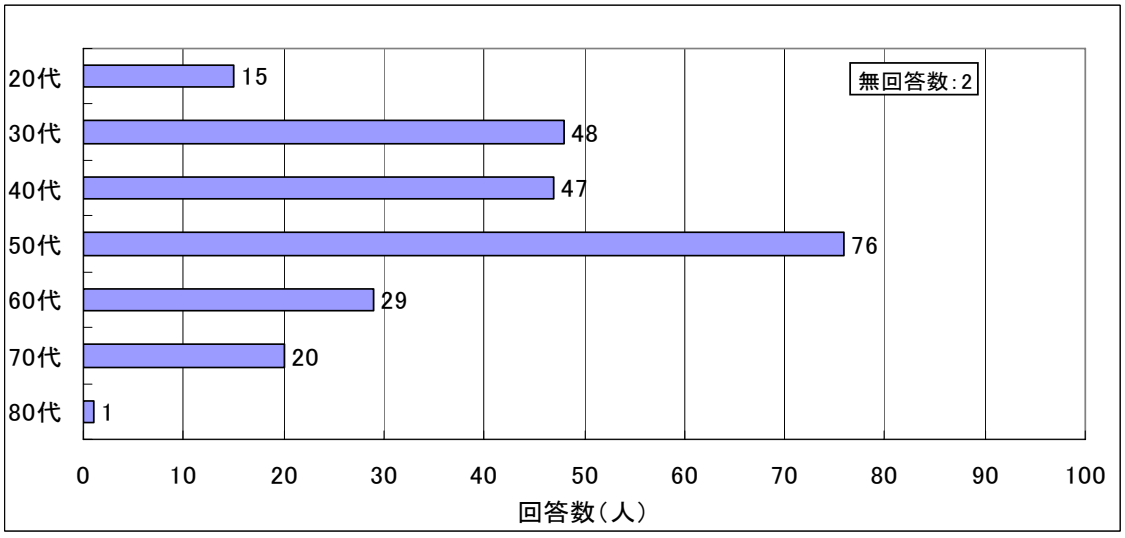


（７）属性

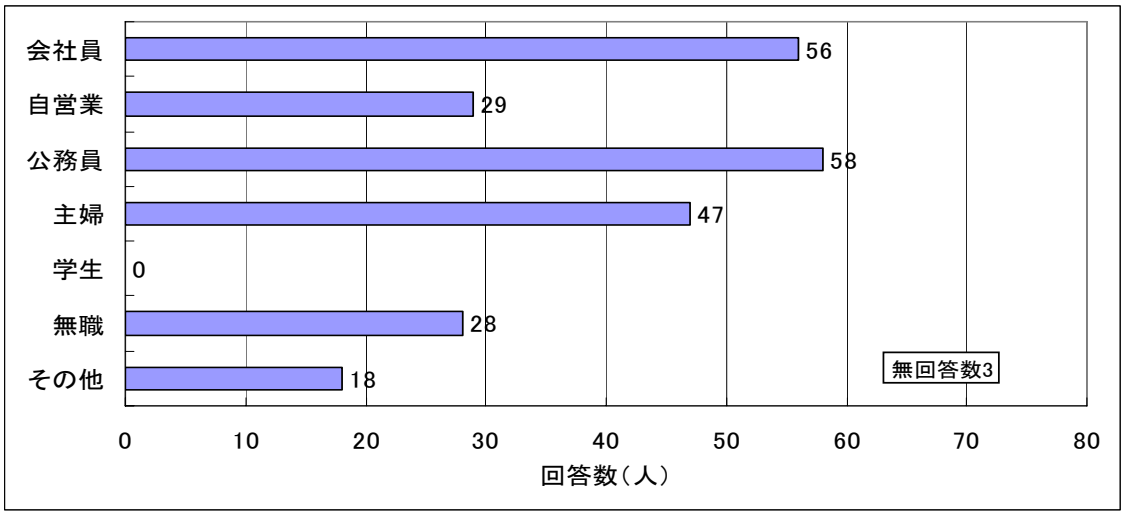
＜性別＞



＜年齢＞



＜職業＞



（８）アンケート結果による便益算定

表-9　アンケート結果による便益算定表

項　目	現　在	将　来
参加人口	14,251 人	18,388 人
来訪回数	4.00 回	5.62 回
消費者余剰	4,019 円	3,336 円
便益計測	2.3 億円	3.5 億円

４．アンケート帳票

奄美市民の皆様へ

鹿児島港湾・空港整備事務所

（公 印 省 略）

『名瀬港（長浜地区）観光船バース』に関するアンケートのお願い

国土交通省九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所では、港湾の賑わい空間に関して市民の方々への意識調査を行っております。

このアンケートは、『名瀬港（長浜地区）観光船バース』について、市民の方々のご意見をお聞きするため、アンケートに回答していただく方を奄美市民の皆様の中から無作為に選ばせていただきました。お忙しいところ誠に申し訳ございませんが、ご回答のご協力をお願い致します。なお、ご本人様がご不在などの場合は、代理の方にご回答いただければ幸いです。

アンケートの主な内容

Ⅰ.現在の名瀬港（長浜地区）観光船バースの利用状況（来訪頻度と目的）について

Ⅱ.将来の名瀬港（長浜地区）の観光船バースの利用予定（来訪頻度と目的）について

Ⅲ.クルーズ船（豪華客船）の船内見学について

－ご記入に際してのお願い－

■アンケートの目的

このアンケートは、港湾の賑わい空間に関して奄美市民の皆様を対象に意識調査を行うものです。

■ご記入に際して

アンケートは、先日奄美大島に寄港した豪華客船の歓迎セレモニーの参加・見学や各種イベントの参加に関する内容となっており、アンケート用紙は１枚です。このアンケートでご回答いただいた内容は、全て統計的に処理し、個々の調査内容については秘密を厳守致し、個人を特定することは一切ありませんので、ご自由にご回答下さい。

なお、「その他」や「具体的に内容をお書き下さい」と書かれているものを選択された場合は、その内容を具体的にご記入下さい。

■アンケートの取扱いについて

ご回答いただいたアンケート用紙につきましては、同封の返信用封筒にて、

10 月 31 日（水）までに投函していただきますよう、ご協力よろしくお願い致します。

■アンケートの問い合わせ先

このアンケート調査は、株式会社ニュージェックに業務委託をしております。ご不明な点がございましたら、下記担当者までご連絡下さいますようお願い致します。

〒531-0074　大阪市北区本庄東 2-3-20
㈱ニュージェック　港湾・海岸グループ
TEL：(06)6374-4038　　FAX：(06)6374-5149
担当：西村壮介、西尾岳裕

『名瀬港（長浜地区）観光船バース』の概要

名瀬港は、奄美大島におけるクルーズ観光の魅力的な寄港地としての役割を担うべく、平成 16 年に長浜地区（図－１参照）に観光船バース※1を、また平成 19 年には様々なイベント開催に対応できるイベント広場（緑地）を国と県で整備いたしました。

これにより、奄美大島に入港する国内外からの豪華客船の歓送迎セレモニーが行われるなど市民の皆様の交流が生まれるとともに、今後、長浜地区の緑地は各種イベントのメイン会場として利用されるなど、更なる賑わいが創出されることが期待されています。


名瀬港（長浜地区）　豪華客船の着岸状況（07.10.4 入港）



名瀬港　全体図

観光船バースの背後には、イベント会場を兼ねたオープンな広場、また遊具の他、アスレチック広場もございます。



図－１　名瀬港（長浜地区）の状況

※1観光船バース：「飛鳥Ⅱ」や「にっぽん丸」等の豪華客船が停泊する専用の施設。

整理番号	

※この番号は統計処理を行うための番号で、
個人を特定するものではありません。

－　これよりアンケートを開始します。　－

ここで、観光船バースとイベント広場（緑地）を『長浜地区 観光船バース』と呼ぶことにいたします。以下の質問１）～１６）の該当する回答番号に○を記入するか、必要な事項を記入して下さい。

Ⅰ　現在の『長浜地区 観光船バース』についてお伺いします。

質問１）あなたは、これまでに『長浜地区 観光船バース』を訪れたことがありますか？

①訪れたことがある。→　質問２）へお進み下さい。
②訪れたことはない。→　（理由：＿＿＿＿＿＿＿＿）　質問６）へお進み下さい。

質問２）『長浜地区 観光船バース』が整備されたことで、あなたはどの程度の頻度で長浜地区を訪問するようになりましたか？①～⑧の中からひとつ選択してください。また⑨に該当する場合は⑨にも○印を入れてください。

①毎日	⑤月に１回程度
②２～３日に１回程度	⑥２～３ヶ月に１回程度
③週１回程度	⑦半年に１回程度
④２～３週間に１回程度	⑧年１回程度

⑨豪華客船の歓迎セレモニーが行われるときに訪れたい

質問３）訪れる際には、どのような交通手段を使いますか？主なものを１つ選択し、移動に係る片道の所要時間と片道の料金（自動車、バイクの場合はガソリン代等）を記入下さい。

①自家用車	→所要時間（	）分、	片道の料金（	）円
②タクシー	→所要時間（	）分、	片道の料金（	）円
③バス	→所要時間（	）分、	片道の料金（	）円
④バイク	→所要時間（	）分、	片道の料金（	）円
⑤自転車	→所要時間（	）分		
⑥徒歩	→所要時間（	）分		

⑦その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

質問４）訪れる目的はどのようなものですか？主な目的に◎、それ以外にも目的がある場合は○をつけて下さい。

①散策・休憩	④豪華客船の歓迎セレモニー
②海などの眺望	⑤その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿）
③水遊び・釣り	

質問５）訪れる際には、どの程度滞在していますか？平均的な時間をお答え下さい。

①３０分以内
②３０分～１時間
③１時間～２時間
④２時間～３時間
⑤３時間～４時間
⑥４時間以上

→ 可能であれば具体的にお答え下さい。
（＿＿＿＿）時間（＿＿＿＿）分程度

Ⅱ　将来の『長浜地区観光船バース』の利用意思についてお伺いします。

奄美大島においては、今後、豪華客船の誘致や、港の中でも奄美を満喫できるような各種イベントを企画する等、『長浜地区』は観光客と市民が交流する空間となることでしょう。

質問６）今後、『長浜地区 観光船バース』は、豪華客船の歓迎セレモニーの他、各種イベントが開催される等、より一層の賑わいの創出が期待されます。あなたは、『長浜地区観光船バース』を訪れたいと思いますか？

①訪れたいと思う。→　質問７）へお進み下さい。
②訪れないと思う。→　（理由：　　）質問１１）へお進み下さい。

質問７）『長浜地区 観光船バース』がより一層の賑わいが創出されることで、あなたはどの程度の頻度で長浜地区を訪れたいと思いますか？①～⑧の中からひとつ選択してください。また⑨、⑩に該当する場合は⑨、⑩にも〇印を入れてください（複数回答可）

①毎日
②２～３日に１回程度
③週１回程度
④２～３週間に１回程度
⑤月に１回程度
⑥２～３ヶ月に１回程度
⑦半年に１回程度
⑧年１回程度
⑨豪華客船の歓迎セレモニーが行われるときに訪れたい
⑩各種イベントが開催されるときに訪れたい

質問８）訪れる際には、どのような交通手段を使いますか？主なものを１つ選択し、移動に係る片道の所要時間と片道の料金（自動車、バイクの場合はガソリン代）を記入下さい。

①自家用車　→所要時間（　　）分、　片道の料金（　　）円
②タクシー　→所要時間（　　）分、　片道の料金（　　）円
③バス　→所要時間（　　）分、　片道の料金（　　）円
④バイク　→所要時間（　　）分、　片道の料金（　　）円
⑤自転車　→所要時間（　　）分
⑥徒歩　→所要時間（　　）分
⑦その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

質問９）訪れる目的はどのようなものですか？主な目的に◎、それ以外にも目的がある場合は〇をつけて下さい。

①散策・休憩
②海などの眺望
③水遊び・釣り
④豪華客船の歓迎セレモニー
⑤各種イベントの参加等
⑥その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿）

質問１０）訪れる際には、どの程度滞在すると思いますか？平均的な時間をお答え下さい。

①３０分以内
②３０分～１時間
③１時間～２時間
④２時間～３時間
⑤３時間～４時間
⑥４時間以上

→ 可能であれば具体的にお答え下さい。
（＿＿＿＿）時間（＿＿＿＿）分程度

Ⅲ　クルーズ船（豪華客船）の船内見学について

名瀬港にクルーズ船が入港した際、クルーズ船の船内見学が行われる場合がございます。

質問１１）クルーズ船の船内見学に参加したいと思われますか？

①参加したい。→　質問１２）へお進み下さい。
②参加しない。→　（理由：　　）質問１３）へお進み下さい。

質問１２）クルーズ船の船内見学は、無料体験となっておりますが、仮に入場料が必要となった場合、いくらまでなら支払ってよいと思われますか？なお本アンケートにより、船内見学が有料となることはございません。

①　５００円 程度　　④　１２５０円 程度
②　７５０円 程度　　⑤　１５００円 程度
③１０００円 程度　　⑥　その他　（　　円 程度）

Ⅳ　あなたご自身のことについてお伺いします。なお、これらの回答は統計的に処理致しますので、ご迷惑をお掛けすることはございません。

質問１３）あなたの性別をお答え下さい。

①男性
②女性

質問１４）あなたの年齢をお答え下さい。

①２０歳代　　④５０歳代
②３０歳代　　⑤６０歳代
③４０歳代　　⑥７０歳代

質問１５）あなたのご職業をお答え下さい。

①会社員　　④主婦　　⑦その他（　　）
②自営業　　⑤学生
③公務員　　⑥無職

質問１６）あなたのお住まいを町名までお答え下さい。（番地の記入は必要ありません）

奄美市（　　町　　）（例：　名瀬幸町　25　　）

最後に、このアンケートについてお気づきの点や参加してみたいイベント、また港を活用した観光振興（観光客を誘致）等について、ご意見などがございましたら、以下の欄にご自由にお書き下さい。

〇 お気づきの点・要望

〇参加してみたいイベント

〇港を活用した観光振興（観光客の誘致等）

〇その他自由意見

－これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。－

